各国の経済制裁の動きの中で、五月二十八日、インドに対抗して、パキスタンも核実験を行っている。この間、およそ一か月の報道は、両国の核実験をめぐる動きばかりが目立っていた。

これほど大きくは扱われないが、世界のどこかでは地域紛争が絶えず、アジアの難民は最低限度の生活を営むこともできない。日本国内においても殺人や事故などたくさんの事件が止まずに起きている。このように振り返ると、自分は何に不自由もなく毎日おいしいものを食べて、いい暮らしをして、「平和」だと思っていたけれど、世界の中にはまだ平和をつかんでいない人たちがいることに気がつく。「平和」―それは、全世界の人類が皆「幸せ」であることなのだとわかった。

以前テレビで「アフリカではたった四円のワクチンすら買えません。」という募金を求めるCMが流れていた。このCMを見るたびに、心では同情する、けれど同情するだけで何もしようとしない自分が情けなくてくやしかった。結局自分のことしか考えていなかった。でもそんな自分を変えようと、少しでも多くの人に幸せに、そして平和になってもらおうと私も協力した。例えばコンビニなどで行っている一円や五円の募金をしたり、緑の羽根募金をしたりなど、日常の小さな行為が世界平和につながると思うと、うれしいものである。今すぐには無理だけれど、いつかは難民キャンプの人たちが、「平和」に暮らせる日が来ればいいなあと思う。

女優の黒柳徹子さんは芸能界でも代表的なユニセフ大使である。私もテレビや雑誌で何度か見たことがある。ハエのたかってくるような場所でイヤな顔一つ見せず裸体の子供たちとふれ合っている黒柳さんを見てとてもすばらしいかただなあと思った。芸能人だからとか、人にいいかっこうを見せようだとかそういった姿は全然なく、ただこの難民たちを助けたいという思いがテレビを通して伝わってきた。私ももっと大人になって仕事をするようになったころ、ボランティアとして人の役に立つことをしたいと思っている。黒柳さんのように大きな影響力をもつのは大変なことだとは思うが、そうした気持ちをもち続けて、身近なところから参加していきたいと思う。

やはりこのような国のことを考えると、日本は平和なのかなあと思ってしまう。確かに殺人事件や事故は毎日のようにあって、物騒な世の中になってしまっている。けれど、いくら不況とはいえ、着る物はあるし、食べる物も住むところもある。まして、食料の残りを捨てたり、まだ使えるものをゴミとして捨てたり、ぜいたくやムダが多すぎると思う。私の父いわく、「日本は平和ボケしている」そうだ。髪の色を変え、ピアスをして、携帯電話で話している姿が見てられないという。今の時代に生まれた私たちにとっては、それが普通であり、特別なことではないとしか受けとられないが、父の言葉を聞いて、難民の子供たちにとっては失礼な光景なのかなと少し考えさせられてしまった。

日本で生まれてくる赤ちゃんより、アフリカで死亡する赤ちゃんの方が多いという事実を聞いて、とても驚いた。人の命とは、はかないものだが、それを創(つく)っていくもの、支えていくものには底知れぬ愛情とやさしさが伴っている。だから今を生きていることが幸せだと思えたとき、自分を支えてくれる多くの人々を大切にしていかなくてはならなくなる。自分の現在を保証してくれている社会についても、無関心ではいられなくなる。自分だけが幸せであれば、自分たちだけが幸せになれたらと考える人がいるのも事実だろう。しかし、自分を支えてくれる人々を大切にしない考え方はいずれ破綻(はたん)につながっていく。このことに気がつくと、人間は一回りも二回りも大きく成長するのではないかと思う。

「平和」それは前にも書いた通り、人類が皆「幸せであること」だと思う。そして人々は皆それを求めて生きていると思う。全人類が幸せになれる日まで少し時間がかかるかもしれないが、目の前にある小さな幸せから世界平和を実現していきたいと思う。

優秀賞　4人

坂爪　望　商業高　二年
碇谷　恵美　鳳鳴高　一年
高嶋　敏郎　東台4区
内田　綾子　獅子ケ森1区

（原文をそのまま掲載しました。）